

社会貢献活動(森林保全・青少年の育成)

リコーは企業市民として、会社、社員、株主の皆様が三位一体となって社会とのコミュニケーションを図り、豊かな社会の創造にお役立ちすることを理念としています。継続的な社会貢献を実践するために「社会貢献積立金制度」を設け、株主総会での承認のもと、毎年の利益から年間の配当金を差し引いた額の1%(2億円を上限とします)を、社会貢献のために積み立てています。積立金は「地球環境保全」「青少年健全育成」「文化・スポーツ振興」「科学・技術振興」など、社会のニーズに対応したグローバルなテーマや、地域社会への継続的な貢献のために活用されます。

森林保全活動

現在、急速なスピードで、世界の森林が失われています。熱帯林に関しては、1980年から1990年の間に1億5,400万ヘクタール減少し、これは日本の面積の4倍にあたります*。森林の減少は、生態系への影響、水源の枯渇、土壌流出、大気浄化やCO₂吸収の低下など、深刻な問題を引き起こします。日本の森林面積率は67%程度と高い水準を保っていますが、これに比べアジアの森林面積率は16%程度に減少しました。熱帯から輸出される木材の50%以上が、日本や欧米先進国で使用されていることも、その要因のひとつです。

リコーでは、森林を保全・復元し、地球規模の危機となっている生物多様性を保全するために、1999年度から「森林保全社会貢献プログラム」の運用を開始しました。日本を含むアジアで、原生林、自然林、さとやまの保全・復元を中心に活動を展開しています。

* FAO 1999 State of World's Forestsより。

森林保全・復元の重要性
緑の「量」を取り戻そうと、さまざまな企業や国家が中心になって、世界各地でユーカリや松の単一植林が行われています。災害防止、CO₂吸収による温室効果ガスの削減など、評価できる点もありますが、生態系への配慮という観点では疑問があります。地球環境の悪化をくい止めるには、現地に元々あった種類の木々を混植して、生態系を取り戻せる「質」の高い緑をつくることが重要です。「質」の高い森林を失わないための、保全活動の重要性は言うまでもありません。

パートナーシップによる活動の展開

森林保全は、まず、地元住民の方々の森林保全に対する理解と協力がなければ実現できません。理解と協力を得るには、環境教育が重要です。しかし、生活が困窮しているエリアでは、環境教育だけでなく、循環型の森林利用、森林復元のための植林、森林管理などを通じて仕事を提供することも重要になります。こうしたことをふまえ、リコーでは、森林保全社会貢献プログラムとして1999年度に6つのプロジェクトをスタートさせました。2000年度は、さらに2つのプロジェクトを追加。これらのプロジェクトはすべて、森林保全・復元の先駆者である環境NPOとの

パートナーシップのもとに、生態系の保全や、地元住民の方々に対してきめ細かな配慮をしながら、継続的に推進されます。現地のリコーグループとのパートナーシップも重要です。スリランカの代理店ヒデキインターナショナルは、森林保全プロジェクトを通じてスリランカ野鳥学グループの事務所のあるコロボ大学へ印刷機を提供することになり、これはスリランカのメジャー新聞の記事にもなりました。リコーフィリピンはリコーの森林保全プロジェクトと連動してポスターコンクールの賞品を提供するとともに、独自にコンサベーション・インターナショナルの保全活



さとやまの復元(バングラデシュ)



水源林の復元(マレーシア)

ホットスポット地域の保全と復元(フィリピン/シエラマドレ)

リコーの支援するNPO

国名	プロジェクト内容	N P O		
		名称	概要	ホームページ
スリランカ	世界遺産地域の森林保全と復元	スリランカ野鳥学グループ	スリランカにおける鳥類生態研究、野鳥を通じた国内外の自然保護活動を展開。	
フィリピン	ホットスポット地域の保全と復元	コンサベーション・インターナショナル	32カ国、1,200名のスタッフが「生物多様性の保全」に資金と人材を集中させ、活動を展開。	http://www.conservation.org
ブルネイ	マングローブ原生林の保全	ラムサールセンター	アジアにおけるラムサール条約(国際湿地条約)の普及と湿地の賢明な利用の実現を目的に活動。	http://www.museum-japan.com/rcj/
マダガスカル	森林樹冠調査	プロナチュラ	アジア、アフリカなどで森林保護を中心に活動を展開する国際的NPO。	
バングラデシュ	さとやまの復元	ポーシュ	バングラデシュにおいて、特に子供を対象にした環境教育を展開。植林活動も実施。	
日本	さとやまの復元	日本野鳥の会	「野鳥も人も地球のなかま」を理念に、野鳥とその生息環境の保全活動を実施。	http://www.wbsj.org/
マレーシア	天然林の復元	WWF	生態系の保全から温暖化防止まで、生物多様性の保全に幅広く取り組む、世界最大の自然保護NPO。	http://www.wwf.or.jp/ (WWFジャパン)
マレーシア	水源林の復元	オイスカ	アジア太平洋地域での農村開発、緑化活動などを通して、地域住民の自立と環境保全を目指す。	http://www.oisca.org

動のサポートを開始しています。これらの活動を通じて、地元の人々の意識改革が図られることも、大きな環境社会貢献につながります。日本の企業が、自分たちの国やエリアの自然に注目していることを知ることで、その重要性に気づくからです。一方、日本の人々に森林保全の重要性を理解していただくために、リコーは、雑誌広告などで森林保全の重要性を訴えるとともに、エコツアーの企画にも着手し始めています。

市村自然塾

リコーは「青少年健全育成」を重点テーマに、社会貢献活動に取り組んでいます。2000年度は、リコー創業者の市村清の生誕百周年を記念して、「市村自然塾」の開校に向けたプロジェクトをスタートさせました。市村自然塾は、小学4年生～中学2年生を対象に、隔週末と夏期休暇に合宿し、自分たちの手で作物をつくり、家畜の世話をし、自然体験や共同生活を通じて「生きる力を大地から学ぶ」ことを基本理念にしています。塾での生活を通じて3つの心(自然をいつくしむ心、相手を思いやる心、社会の一員として最低限のルールを守る心)と2つの力(自分のことは自分でできる力、安全・危険を知る・予知できる力)を養ってもらうことを目的としています。関東(足柄上郡やどりき)に2002年3月、市村清の生誕の地である佐賀県に2002年度中に開塾する予定です。

リコー・キッズ・ワークショップ

リコーは、「新技術開発財団*」が主催する「リコー・キッズ・ワークショップ」を全面的に支援しています。これは、小学4年生～中学3年生を対象に、実際にファクシミリやレーザープリンターを分解し、その原理やしぐみを楽しみながら理解しようというイベント。2000年度は、3回のリコー・キッズ・ワークショップを開催しました。

少年少女からは「とにかく分解するのが楽しかった。中からどんなものが出てくるのかなーとわくわくした」「実を言うと、あまり理科は好きではなかったのです。しかし、この実験から好きになりました。理科にここまで夢中になったのは初めてです。僕のまわりにも理科がらしいの友達がたくさんいます。ぜひこの体験をさせてください」。保護者の方からは「普段このような企画に参加してほしかった感想もなく帰ってくるのに、今回は帰ってくるなり『楽しかったよ』と言っていました。じっくり時間をかけて、判りやすく説明を受けた実習ができ、良かったようです」などの声が寄せられました。

* 右のコラムを参照。



子供達への環境問題の啓発

リコーは横浜デジタルアーツ専門学校の学生と共同で、小中学生を対象にしたホームページ「ECO TODAY*1」を制作。オサムくんとヒカルちゃんという二人の子供達の会話を通して、身近なことから地球環境問題を説明し、自分たちにできることを考えていく内容になっています。また、その環境問題に対するリコーの活動も紹介しています。2000年度、環境ポータルサイト「環境goo*2」の大賞を受賞しました。

*1 61ページを参照。 *2 <http://eco.goo.ne.jp/>

新技術開発財団(市村財団)

新技術開発財団は、社会に貢献する技術開発や研究を表彰・助成することを目的に、リコーの創業者である市村清によって、1968年に設立されました。市村清の遺言により寄贈された、個人所有の全有価証券(当時の時価で約30億円)をもとに、次のような事業を展開しています。

1)新技術開発の助成

科学技術に関する新技術の実用化に努力されている方を助成しています。独創的な国産技術で、大きな経済的効果が期待できることなどが選考基準になります。

2)市村産業賞の贈呈

科学技術の進歩、産業の発展、文化の向上、国民の福祉などに、技術貢献した事業経営者ならびに技術開発者に対する賞で、本賞には賞金1,000万円が贈られます。第32回市村産業賞(贈呈式2000年4月28日)では、3年ぶりに本賞が選ばれ、(株)東芝の「大容量NAND型フラッシュメモリの開発とその応用分野開拓」が受賞しました。

3)市村学術賞の贈呈

大学ならびに研究機関で行われた研究のうち、学術分野の進展に貢献し、実用化の可能性のある研究に功績のあった技術研究者またはグループを表彰。賞金の贈呈とともに、受賞者が国際研究会などに出席するための旅費の援助も行っています。

4)少年少女の創造性育成

小・中学生のアイデアの芽生えを奨励するための「市村アイデア賞」の贈呈をはじめ、科学の原理を楽しみながら理解し、さらに科学技術への興味・意欲を高める「リコー・キッズ・ワークショップ」の主催を行っています。

5)植物研究への助成

緑の保全・育成は、地球規模の課題です。そのための一助として、植物研究園を運営し、植物研究者への助成と、フィールドおよび研究棟の提供を行っています。